

青葉山に、音が咲く。

# 第15回青葉山コンサート

日時：2023年5月26日（金）

17:00 開場 17:30 開演

参加申込不要・入退場自由

場所：青葉記念会館 1F ロビー

主催：青葉山コンサート実行委員会

後援：東北大学 工学研究科・工学部

# 第 15 回 青葉山コンサート

青葉薫る五月の風は、四年ぶりに新鮮な彩りを放っています。六十年を経た青葉山のけやき並木はそそり立つ巨人のようで、新築のビルディング群を圧倒していっそう迫力を感じます。いつもの景色がやけに新鮮に感じるのは、三年間の「オンライン」が、心の中では風さえ避けるオフラインだったのかもしれない、と気づかされました。十五回目の久々の通常形態のコンサートを迎えて、学生メンバーはすっかり一新し、ピカピカだったピアノの音はまろやかさを増してきました。音の咲くキャンパスを連想しながら、リアルなサウンドに加えて、一音一会のハーモニーをお楽しみ下さい。

実行委員 中田俊彦

開会のあいさつ 理事・副学長 滝澤博胤

## プログラム

●J. S. バッハ／平均律クラヴィーア曲集第 1 巻 前奏曲とフーガ 第 1 番 八長調 BWV 846

●モーツァルト／ピアノソナタ 二長調 K. 576 から第 1 楽章 アレグロ

井樋慶一(Pf 生命科学研究所 客員研究員, 東北大学 名誉教授)

1. 前奏曲は清明で美しく、バスの流れの上に分散和音が奏される。転調により和音の色合いが次々に変わるが、中には不思議な和音も含まれる。フーガは 4 声部の主題が順番にあらわれた後、主題旋律が完結する前に同旋律の他声部が割り込んで来る。4 声部が重なりクライマックスを形づくる。
2. モーツァルト最後のピアノソナタは彼の最高傑作である。バッハの影響で対位法的手法が用いられ、冒頭旋律が角笛を連想させるので「狩」の愛称がある。

●ドビュッシー／アラバスク第 1 番

●ショパン／エチュード Op25-12「大洋」

李 智イ(Pf 工学部 1 年)

アラバスク第 1 番はドビュッシーにより 1888 年に作曲された曲で、全体的に穏やかな曲調です。曲中では分散和音と旋律が絡み合って曲が進んでいき、大変美しい曲となっています。

エチュード「大洋」はショパンにより 1835 年に作曲された曲でショパンエチュードを締めくくるにふさわしい力強い曲となっています。オクターブが延々と繰り返される曲で全体的に重苦しい雰囲気漂う中に時折穏やかな部分が現れます。

●ベートーヴェン／ピアノソナタ第 24 番 嬰ハ長調 作品 78 番 1 楽章

長谷川真里(Pf 教育学研究科 教授)

大曲「熱情ソナタ」の次に発表された小規模なソナタです。弦楽四重奏曲を思わせる、優美な佳曲。生涯を通して友情を育んだ知的な女性に捧げられたと言われています。

●エルガー／愛の挨拶

中田研音楽部(中田俊彦 (Pf 工学研究科 教授), 小野遼河 (Vn 工学研究科 博士課程後期 1年))

エルガーが 1888 年、妻のアリスとの婚約記念に贈った作品です。エルガーが 29 歳の時にアリスと知り合い、周囲の反対を押し切りやがて結婚しました。当時、妻のアリスは作家としてすでに知られており、エルガーとの結婚の際に「愛の恵」という一編の詩を贈っています。「愛の挨拶」はその詩のお返しとして作曲されました。

休憩

●ショスタコーヴィチ／チェロとピアノのためのソナタ 作品 40 から第 1, 第 2 楽章

DUO 動物園(村田 智(Vc 工学研究科 教授), 今野喜久代(Pf ゲスト))

スターリンの大粛清が吹き荒れる 1934 年、ショスタコーヴィチ 28 歳の時に書かれた作品です。第 1 楽章は、若者らしい豊かな抒情にはじまり、緊張そして暴力の爆発のあとに死のような静寂が訪れます。続く第 2 楽章は一度聴いたら忘れられない機械的ダイナミズムの音楽です。次第に戦争に向かっていく時代の空気を表現できたらと思います。

●J. S. バッハ／ヴァイオリン協奏曲第 1 番 BWV 1041

なりゆき

(江村 玲(Vn 文学研究科 博士課程後期 1年), 田中律羽(Vn 工学研究科 博士課程前期 2年))

私たちは、それぞれの学部やバックグラウンドを持ち、まったく異なる人生を歩んできました。しかしながら、お酒という共通の嗜好品が私たちを繋ぎ、深い絆を築いてくれました。偶然の出会いから始まった私たちの物語は、今宵、美しいバッハの音楽によって更に輝きを増し、感動的なクラシック音楽の世界へと誘われています。私たちの心を揺さぶる、その壮大な旋律に身を委ね、共に感動を分かち合いましょ。

●J. S. バッハ／フーガの技法 対位法1

中田俊彦(Pf 工学研究科 教授), 阿部玲子(Pf ゲスト)

バッハのフーガの技法は、もっともシンプルなフーガで、明確な対位句すら現れず、ほぼ単一主題のまま、さわめて狭い範囲の調のみを通る。楽曲の中間にいったい休止も完全終止も入らないため、厚みと重みを持ったまま進む。原作ではオープンスコアで書かれ、楽器は決められていない。対位法 1 は、本質的に厳粛な曲である。

休憩

●シューベルト(編曲 ウィルヘルミ)／アヴェマリア

●カラージェ／ポレロ

田原靖彦(Mand 東北大学 OB), 阿部玲子(Pf ゲスト)

ピアノ伴奏によるマンドリン・ソロで2曲をお届けします。1曲目の「アヴェマリア」は、シューベルトの有名な歌曲をドイツのヴァイオリン奏者ウィルヘルミがヴァイオリン・ソロ曲として仕立てたもので、歴史的な編曲として知られています。2曲目の「ポレロ」は、マンドリン界のレジェンドであるカラージェによるマンドリン独奏曲で、ピッキングによる躍動的な主題とトレモロによる叙情的な中間部が見事な対比を形作っています。

●久石譲／Summer

佐藤洋輔(Pf 加齢医学研究所 職員)

映画音楽を中心に数々の作品を手掛けている久石譲。その中から、映画「菊次郎の夏」のメインテーマである本曲を演奏します。季節はこれから夏へ。皆様それぞれの「夏」を思い浮かべながらお聴き頂ければと思います。

●アンジェラ・アキ(編曲 郷間幹男)／手紙～拝啓十五の君へ～

大久保千佳(T. Sax 事務補助), 田中律羽(Vn 工学研究科 博士課程前期 2年)

第75回NHK全国学校音楽コンクール中学校の部課題曲、NHK みんなのうたや映画「くちびるに歌を」の主題歌そして、日本郵政グループTVCMソングでどこかで耳にした曲を研究室のできる楽器で演奏します。

●野田洋次郎／愛にできることはまだあるかい

こんもーと(東北大学学友会混声合唱部)(清水優希(Ten 工学部 1年), 西谷 舜(Ten 工学部 3年), 寄田祐真(Ten 経済学部 3年), 昆野太河(Bas 農学部 1年), 西園寺奏太(Bas 理学部 1年),

小寺勝士(Bas 工学部 2年), 高野由暉(Pf 工学部 1年))

東北大学学友会混声合唱部は12月に主催する定期演奏会に向け、日々練習に励んでいます。今回は混声合唱部の有志メンバーにより、映画「天気の子」の主題歌である「愛にできることはまだあるかい」を演奏いたします。曲中では「愛にできることはまだあるかい 僕にできることはまだあるかい」といった言葉が繰り返し登場します。少年だからこそ分かるこの世界の生きづらさ、そして我々人間にできることは何なのかといったことが描かれています。大学生ならではの合唱をお楽しみください。

青葉山コンサート実行委員会

教職員

村田 智, 中田俊彦, 茂田正哉, 高奈秀匡

中村 肇, 杉本 真, 鴫田 駿, 中山貴史

同窓生

桑野博喜, 川又政征, 田原靖彦

お問い合わせ:[aobayama-contact@googlegroups.com](mailto:aobayama-contact@googlegroups.com)

青葉山コンサートホームページ <https://web.tohoku.ac.jp/eng/mirai/aobayama/>

青葉記念会館のグランドピアノは、震災後5年を経た2016年3月、心の復興のために機械系同窓会が寄贈したものです。

協力:工学部事務局 教務課学生支援係, 施設管理室

プログラム・ポスターデザイン 小林雅幸

ロゴデザイン 笹川瑛貴